

平成 23 年度 明星大学「入学前教育プログラム」実施報告

羽 矢 みずき*

1 はじめに

「入学前教育プログラム」は、平成 22 年度には年内推薦入試の入学予定者を対象に、6 回の「スタートアップ講座」を実施した。さらに「スタートアップ講座」の後に開始する「通信添削」の結果から、成績が水準に満たない 88 名を抽出し、3 月に「フォローアップ講習」の実施を予定していた。しかし、3 月 11 日の東日本大震災により、「フォローアップ講習」の実施は取りやめとなった。「入学前教育プログラム」は、アドミッションセンターが中心となって実施してきたが、昨年度より明星教育センターが初年次教育との関連で「スタートアップ講座」を担当するなど新たな構成で実施を試みた。

平成 23 年度は、明星教育センターが「保護者説明会」のプログラムも含めて全体を統括して行った。「スタートアップ講座」では、昨年同様「通信添削」を担当している四谷ゼミナールと連携し、入学前の大切な時期におけるリメディアル教室への積極的な参加と通信添削への取り組みを促した。

今年度の「入学前教育プログラム」の目標は、①大学での学びの意識を高めること、②基礎的な学力維持のために「通信添削」に意欲を持って取り組むこと、③大学生生活開始までの期間を有意義に過ごせるようにすることである。11 月 20 日・12 月 18 日・12 月 25 日に実施した 3 回の「入学前教育プログラム」の結果を報告したい。

2 明星大学のサポート体制

(1) 4 つのサポート体制

明星大学における全学での「入学前教育プログラム」は、「プレテスト・スタートアップ講座」「通信添削」「フォローアップ講習」「スクーリング」という 4 つのサポート体制で構成されている。入学予定者にもこのシステムを説明し、「入学前教育プログラム」の実施目的と意義、「入学前教育プログラム」の中の「プレテスト・スタートアップ講座」「通信添削」までを 1 日で体験することを伝えた。

今年度の「入学前教育プログラム」の大きな改善点は、受講する入学予定者や、教職員と学生スタッフの負担を軽減するために、昨年度の 6 回（10 月～2 月）の実施を 3 回（11 月 20 日・12 月 18 日・12 月 25 日）に集約して実施したことである。また、プログラムの内容も、座席の頻繁な移動など過剰な負担を軽減したので、入学予定者を誘導する教職員や学生スタッフへの連絡も円滑に進めることができた。

これまで入学予定者の中には、「通信添削」を試験と誤解して返送を怠る者が多かった。今回も誤解を与えないように、参考書や辞書などを使用して調べて解答しても良いこと、「スクーリング」を利用して大学内の教員の指導を受けながら解答を作成できるということなど、詳細な説明を「通信添削」の担当者が行った。

「通信添削」は見えない相手に返送する課題であるため、入学予定者に漠然とした印象を与えがちだが、「入学前教

* 人文学部常勤教授 明星教育センター

育プログラム」の場で「通信添削」の担当者と顔を合わせて直接説明を受けることは、「スクーリング」参加への不安を解消し学習意欲に繋がると考え、より良い効果を期待している。

3回実施した「入学前教育プログラム」の日程と対象者は、以下の通りである。

「入学前教育プログラム」対象者

回数	日程	対象者
1	平成23年10月24日(日)	AO9月・10月入学予定者
2	平成23年11月28日(日)	指定校推薦入試・公募制推薦、明星高校、卒業生子女・スポーツ
3	平成23年12月19日(日)	AO12月入学予定者

(2) 学内他部署との連携

入学予定者への対応の中で、「プレテスト」の実施はアドミッションセンターが中心になって行われた。同時刻に実施した「保護者説明会」では、学生のサポートについて説明した。また、当日に体調不良を訴える入学予定者を想定して、1名の看護師に待機することを要請した。

3 「入学前教育プログラム」の実施

午前中に「プレテスト」、午後に「スタートアップ講座①②」を実施した。

午前	10:00～10:15	「入学前教育プログラム」についての説明	
	10:20～10:50	プレテスト(英語)	必修
	11:00～11:30	プレテスト(国語)	
	11:40～12:10	プレテスト(数学)	選択
午後	13:00～14:20	スタートアップ講座①	
	14:30～15:30	スタートアップ講座②	

(1) プレテスト

前日までに、「入学前教育プログラム」で使用する「ガイドブック・アンケート用紙2種類・キャンバスマップと教室割表(両面)の別紙」という4種類の資料を入れた封筒を受験番号のついた机に置き準備する。

当日は、10時から事前説明を開始。ガイドブック1頁の「今日の予定」を指示しながら、「プレテスト」「スタートアップ講座」の目的を説明する。「プレテスト」は、午前10時20分から12時10分までの1時間50分の中で3教科の試験を実施する。英・国・数の3教科のクラス(2教室)と、英・国の2教科のクラス(1教室)を学部・学科別に編成した。

(2) スタートアップ講座①

以下の予定表に沿って、グループ学習の形式で授業を進めた。

時間	所要	内容	方法	注意点・配布物
13:00	10分	導入 グループ作り ガイドブック6頁	<ul style="list-style-type: none"> グループワークのために、グループ作りをする。教職員が4人一組のグループを指示する。 スタートアップ講座の目的を3頁で説明し、「1時限目は大学生活をイメージして、入学までにやっておくことを考えましょう」「2時限目は学科別の説明です」と明確に予定を伝える。 6頁の座席表に氏名を書くように指示する。 	欠席者の状況によって、3人または5人一組になることもある。

13:10	10分	自己紹介 アイスブレイク ガイドブック 7 頁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 頁の自己紹介シートの説明をする。 ・ 個人で自己紹介シートに記入する。 ・ 発表リレーで、グループで共有する。 	
13:20	10分	大学生生活をイメージする インタビュー ガイドブック 8 頁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介で決めた 1 番の発表者に手を挙げさせ、グループの位置を配布者に伝えさせる。 ・ A3 のインタビューシート 1 枚を配布し、8 頁でやり方の説明をする。「話す・聴く」を通してグループで交流する。 	インタビューシートをグループに 1 枚配布。手を挙げている新入生に配布。
13:30	20分	「大学生準備度」をチェックしよう チェックリスト ガイドブック 9 頁・10 頁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 頁のチェックリストを記入する。10 頁の 1・2 まで、個人で記入する。(7 分) ・ 別紙の「明星大生になるまでに」を配布。 ・ 説明後に 10 頁の 3 を書き、グループで共有する。入学までにどのような点に注意して生活するべきかを意識させる。(13 分) 	「明星大生になるまでに」を 1 人に 1 枚配布。
13:50	20分	通信添削ガイダンス四谷 ゼミナールに依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信添削は自分で調べて解答できる ・ 添削を担当する先生の紹介 ・ 通信添削で学ぶことの意義 	
14:10	10分	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 時間目全体の振り返りを 22 頁の下段に書くように指示する。グループで共有させる。 ・ 入学後に「自立と体験 1」を紹介する。 	終了時に受験番号シールの撤去と、教室移動を指示。

①今年度の改善点

改善点の 1 点目として、午前中の「プレテスト」から午後の「スタートアップ講座①」まで、入学予定者が教室と座席を移動することなく、同じ場所で 1 日のプログラムを終えられるようにした。その結果、誘導する学生スタッフへの指示も最小限になり、大幅な時間の超過もなくプログラムをスムーズに進行させることができた。会場は 2 つの大教室（第 3 回目は 3 教室）を使用した。

改善点の 2 点目として、「スタートアップ講座②」で、各学部学科による独自の指導の実施を試みた。指定した教室に移動させ、専門科目の担当教員による説明、もしくは授業を 60 分以内で受講するという内容で行った。「スタートアップ講座②」を別の日に実施する 5 学科については、明星教育センターの教員が担当した。

②導入

授業開始時に、グループ学習をする 4 人 1 組のグループを作ることを伝え、欠席者による空席があるため教職員が 4 人 1 組（3 人や 5 人の場合もある）のグループに分ける。

「入学前教育ガイドブック」を指示しながら、「スタートアップ講座」を実施する目的を説明し、明星大学入学までに何をしておくのかということについて考え、グループで話し合うという方向性を指示した。

③「自己紹介シート」

「ガイドブック」の「自己紹介シート」で、4 つの質問に対する各自の答えを考えさせた。各自が自己紹介シートを書きこんだところで、発表リレーで話し合いをさせる。グループワークを初めて経験する入学予定者が多いため、発表の順番を教員が指示した方がスムーズに始められた。

答えを一言だけで終わらせるのではなく、その答えに理由も付け加えるようにすると会話に広がりが出ることを説明すると、会話を続けようと努力する姿が見られた。

「自己紹介」が終了する頃になると、話がはずんでいるグループと、話しにくそうにしているグループとが明確になってくるので、サポートする学生スタッフに、この点に気をつけるように指示しておくことで適確な対応がなされた。

④ 「インタビューシート」

12問の質問を記載したA3用紙の「インタビューシート」をグループに1枚配布して、進め方を説明した。全員が質問者になり回答者にもなるというこのゲームでは、グループメンバー全員で交流することが目的である。合図するまで何周でも回ってよいという指示を出したので、会話がはずんだグループが多かった。

⑤ 「大学生準備度」をチェックする—チェックリスト／「明星大生になるまでに」を考える

「自己紹介」や「インタビューシート」は、グループワークの導入にアイスブレイクとして使い、その後に「大学生準備度」をチェックする「チェックリスト」を今回のグループワークに加えた。入学後の大学生活をイメージし、現在の生活を振り返らせて、自分を客観視させることが目的である。

12問の質問の内容は、「生活習慣」「コミュニケーション」「学習習慣」「大学生活への理解」という4種類に分けて構成した。さらに、考えを深めさせるために「チェックリスト」を書いた後に答える質問を3問設定した。回答後に「明星大生になるまでに」というプリントを配布し、「チェックリスト」がどのような主旨で作成されているのか、また現在の生活全般を確認してほしいということを説明した。

各自の結果をグループで紹介し話し合うことにより、他者との違いを知り、刺激を受けて自分を振り返ることに繋がったようだ。以下に、教材の内容を紹介する。

「大学生準備度」チェックリスト

チェックリストを使って、大学生活に向けてどのような準備が必要なのか確認してみましょう。

1. 食事を規則正しく1日3回とっていますか？
2. 昼夜逆転の生活にならず、早寝早起きをしていますか？
3. 授業の開始時間に合わせて、遅刻せずに学校に行っていますか？
4. 初対面の人と自分から会話することができますか？
5. 友人たちとの会話に気軽に入っていけますか？
6. 自分の意見をもっている時、それを話すことができますか？
7. 授業でわからないことがあったら、先生に質問したり自分で調べていますか？
8. 授業で黒板の板書だけではなく、先生の話聴きながらノートをとることができますか？
9. 宿題や試験の準備は計画的に行っていますか？
10. 大学で授業以外に、課外活動やボランティア活動など取り組んでみたいことはありますか？
11. 大学では、自分で時間割を決めて授業を受けるということを知っていますか？
12. ホームルームや担任制などの高校の仕組みと、大学の仕組みとの違いを知っていますか？

*** **

- Q1. 最も印象に残った項目は何ですか？
- Q2. なぜその項目が大学生にとって必要なのでしょうか？理由を考えてみましょう。
11番・12番の項目については、高校と大学とで違いがあるのはなぜなのか考えましょう。
- Q3. 「大学生準備度」を上げるために、大学生活が始まるまでにやってみようと思う行動を3点書きましょう。

明星大生になるまでに

■チェックリストの「はい」の数で、今の自分の生活を振り返ってみましょう。

「はい」の数	内容
6 個以下	準備不足。しっかり準備しましょう。
7～9 個	入学まで、その調子を落とさずに頑張りましょう。
10～12 個	着実に入学後の準備を進めていますね。

■チェックリストは、内容を以下のように 4 種類に分けて構成しています。

項目番号	「はい」の数	種類	説明
1～3 番		生活習慣	春休みになると、夜更かしなど生活のペースが乱れがちです。食事・睡眠を規則正しくとり、健康を維持しましょう。充実した大学生活を送るために「自己管理」をする習慣をつけておきましょう。
4～6 番		コミュニケーション	大学は様々な人と出会える場なので、多くの人と交流しましょう。友人とのコミュニケーションは、自分の世界を広げていく大切なチャンスです。
7～9 番		学習習慣	大学では、自分で出席や単位取得などの手続きを行います。わからない場合は、大学の各事務局のサポートを求めましょう。自主的に取り組む姿勢が必要です。
10～12 番		大学生活への理解	学生の多くが 20 歳以上の成人である大学では、「大人」としての責任ある行動が求められます。「大人」として社会のルールを守り、自己中心的な行動をとらないようにしましょう。

あなたの「はい」、または「いいえ」の数が多かったのはどこでしょうか。

現在の生活の中で、どのような点に注意すればいいのか自分で確認しておきましょう。

「明星大生になるまで」の大切な期間を有効に過ごしましょう。

⑥「通信添削」ガイダンス

「通信添削」を担当している四谷ゼミナールの教員によって、「通信添削」の取り組み方について詳細な説明が行われた。「通信添削」は試験ではないため、参考書・辞書を使って調べたり、スクーリングを利用して教員の指導を受けながら問題を解くことも可能であることを説明した。この説明によって、昨年度から「通信添削」に取り組む学生が増加し、大学生活への不安を訴える声が減少したという結果を得ている。現在の通信添削の返送率が約 90% 近くになっているという結果も、このガイダンスに因るところが大きい。

⑦「振り返り」

最後に「スタートアップ講座①」に対する考えを「振り返り」として書かせ、再びグループ内で発表して終了とした。大学生活を開始するまでの期間をどのように過ごすか、この期間にやってみたいことなどを具体的に考えることができたようだ。

「スタートアップ講座②」への教室移動は、各学科ごとに順に移動させ、学生スタッフに誘導を指示した。

(3) 「スタートアップ講座②」

時間	所要	内容	方法	注意点・配布物
14:30	5分	5学科を対象 ガイドブック 23頁	各学科からの連絡を待ち、それに従うように説明する。	
14:35	15分	在学生からのスピーチ (2名～4名)	・現在の大学生活で自分が興味を持ってやっていること。 ・入学までにやっておいて役に立ったと思うこと。 ・新入生へのメッセージ。	
14:50	10分	「入学前教育」について アンケートを実施	時間をとって、アンケートの中の200字の「今日の感想」をしっかりと書くように強調する。	アンケート2種類

①学部学科別の指導

各学部学科ごとに、指定された教室に新入生を移動させ、授業また授業説明を担当教員が行った。時間は学部学科によって異なるが、30分～60分以内で実施した。

各学部学科別の指導「スタートアップ講座②」を、別の日程で実施予定の5学科「日本文化学科・人間社会学科・福祉実践学科・心理学科・教育学科」については、明星教育センターの教員が担当した。②以下では明星教育センターの教員が担当した授業内容を紹介する。

②在学生のスピーチ

今後の入学までの期間は、各学部学科からの指示に従うように伝えた。明星教育センターの勤労奨学生(2人～3人)が「在学生のスピーチ」を担当し、あらかじめ考えてきた自分の体験談や入学予定者へのアドバイスを話した。入学予定者は年齢的に近い在学生の話を興味深く聞き、教員の抽象的になりがちな話より入学予定者に良い効果を与えたと思われる。

③アンケート「今日の感想」の作成

最後に1日受講した「入学前教育プログラム」についてのアンケートを実施した。時間を10分～15分と長めに取り、「入学前教育プログラム」に対する意見・感想を200字で書くように指示した。200字で感想を書き上げた入学予定者は多く、文章を書く力という点でも評価できる者が多いことがわかった。

次にいくつかの感想をあげると、「初対面の人と話すのは緊張したが、自己紹介は積極的に話せて楽しかった」「合格してからは合格できたかた後はどうでもいいやと軽く考えていたが、在学生の話を聞いて、だらだら過ごしてはいけないと思った」「大学生活のイメージがつかめて、入学が楽しみになった」「入学するまでの間にやるべき目標が見つけられた」「通信添削を頑張ろうという気持ちになった」など、1日のプログラムをしっかりと受け止めて考えたことがわかる。

4 学生スタッフ

「スタートアップ講座①」の開始時に、教職員がグループ分けをする際、自分が担当する場所のグループを確認しておくこと、また授業中の資料配付方法や場所など、それぞれの教室で一緒に担当する学生スタッフの間で事前に打ち合わせをしておくように促した。

学生スタッフは全員で22人～27人が補助に入り、モノレールの駅から会場である校舎まで誘導する学生と、「プレテスト」での問題配布・解答用紙回収の補助、教室前での座席への誘導、「スタートアップ講座」でのグループワークのサポートをする学生とをほぼ半分ずつに分けて、1日のスケジュール表に従って行動するように指示した。

学生スタッフには、赤い T シャツまたは赤いジャンパーを着用してもらい、入学予定者からスタッフであることがすぐにわかるように工夫した。

昨年度の「入学前教育プログラム」や「自立と体験 1」の SA としてグループワークの補助に慣れている学生が増えてきたため、今年度は事前研修を行わずに、当日の朝の説明のみで臨んだが混乱は見られなかった。

5 「入学前教育プログラム」入学予定者の参加状況

全体を平均すると約 80%以上の出席率となり、新入生にとって大学生活への関心と期待が大きいことが読みとれる。

日程	対象者	当日出席者	参加率
平成 23 年 11 月 20 日 (日)	318 名	263 名	82.7%
平成 23 年 12 月 18 日 (日)	625 名	549 名	87.8%
平成 23 年 12 月 25 日 (日)	91 名	68 名	74.7%
合計	1034 名	880 名	81.8%

6 入学予定者へのアンケートの状況

入学予定者へのアンケートは、11月20日、12月18日、12月25日の受講者に対して3回行った。

今回はアンケートも改善し、記述式の具体的な感想では「初対面の人と話し合うことができた」や「大学生活への心構えができ、入学前にやっておくべきことが多いことを知った」「自己管理をしなければならない」など、「チェックリスト」で確認させたことが反映していた。「大学生活をイメージできた」「入学前にやりたいことが見つかった」という項目の数値が大きくなっている一方で、「自分の意見を文章でわかりやすく表現できない」という自分の弱点を客観的に捉えることができたようだ。以上のことから、大学が意図した「入学前教育プログラム」の意義を達成できたといえるだろう。以下にアンケートの結果を紹介しておきたい。

■ 3 回分のアンケート結果 (出席者 880 名を対象)

Q2 プレテスト (英語)		
やさしかった	ふつう	むずかしかった
86 名	502 名	264 名

Q2 プレテスト (国語)		
やさしかった	ふつう	むずかしかった
111 名	603 名	137 名

Q2 プレテスト (数学)		
やさしかった	ふつう	むずかしかった
40 名	280 名	338 名

Q3 自分のいまの学力は確認できましたか	
はい	いいえ
795 名	50 名

Q4 グループの学習はどうでしたか。				
よかった	まあよかった	普通	あまりよくなかった	よくなかった
432名	238名	158名	19名	4名

Q5 通信添削の理解はできましたか。				
理解できた	少し理解できた	ふつう	あまり理解できなかった	理解できなかった
472名	251名	112名	15名	0名

Q6 学科説明会はどうでしたか。				
よかった	まあまあよかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった
440名	220名	152名	10名	2名

Q7 大学生生活のイメージはできましたか。				
理解できた	少し理解できた	ふつう	あまり理解できなかった	理解できなかった
232名	474名	132名	14名	1名

Q8 入学前にやりたいことは見つかりましたか。		
見つかった	なんとなく見つかった	見つからなかった
284名	532名	40名

Q9 大学卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
252名	450名	140名	11名

Q10 学生時代にすべきことを考えていますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
204名	582名	64名	1名

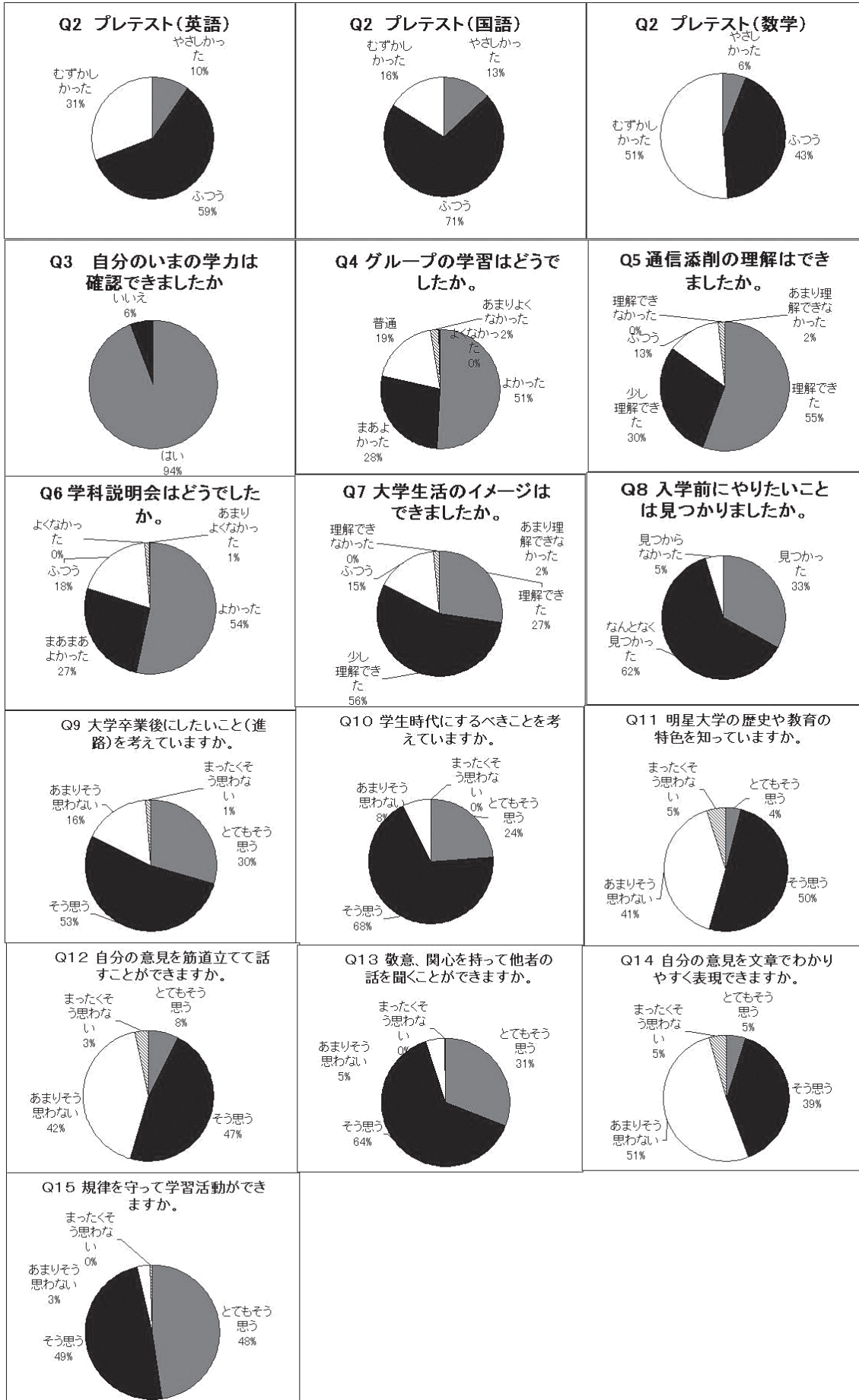
Q11 明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
33名	432名	347名	42名

Q12 自分の意見を筋道立てて話すことができますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
65名	401名	361名	29名

Q13 敬意、関心を持って他者の話を聞くことができますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
265名	548名	41名	2名

Q14 自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
42名	337名	438名	39名

Q15 規律を守って学習活動ができますか。			
とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
407名	416名	27名	4名



7 今後の展望

2年目の「入学前教育プログラム」は、1年目の反省点を生かして無駄を省略し、簡潔にプログラムを進行させることを主眼とした。その結果、教職員と学生スタッフの連携も改良され、入学予定者にも過剰な負担を負わせることなく終了させることができた。

12月18日の「入学前教育プログラム」の出席者は549名になり、「プレテスト」「スタートアップ講座①」を大教室3クラスで実施したが、大きな混乱もなくプログラムを進められた。また、年内の3日間（11月20日、12月18日、12月25日）に集約して「入学前プログラム」を実施したことは、教職員や学生スタッフの負担を軽減するだけでなく、次のステップである「フォローアップ講習」（3月中旬実施予定）の準備に、冬休み明けからすぐに取りかかれるという利点も得られた。

今後も「入学前教育プログラム」が入学予定者の学習意欲を維持させるものであり、入学後も充実した学生生活へと導けるプログラムになるように考えていきたい。

